

Better Care

介護新時代の情報誌
[ベターケア] 第45号
春 2009 Spring

新潟市（新潟県）、練馬区（東京都）、宝塚市（兵庫県）
百人百色の介護
●ドキュメント

〔特集1〕男性介護

■津止正敏「立命館大学 教授」

■男性介護者の方会「のんびり俱楽部男子寮」

〔特集2〕介護報酬改定に異議あり！

■沖藤典子「作家」

■4月からこうなる、介護報酬＆利用料

●「10年いろいろ」その後のあれこれ』米窪麻友子

4 — 第一特集

男性介護

津止正敏
〔立命館大学教授〕

男性介護者をキイに日本の介護環境をもつと豊かに変革しよう
のんびり俱楽部男子寮
男性介護者の会 気楽に楽しく

■男性介護者

内田順夫／本村昌文／小川幾多郎

百人百色の介護

16 — ドキュメント

16 ● 新潟市東区／小規模多機能型居宅介護サービス
ささえ愛あわやま

その人に合った介護を!
高質のサービスを全員でめざす

19 ● 東京都練馬区／鈴木寿子さん 彩久さん

母は、軽度のアルツハイマー。

会社勤務と在宅介護の両立をどうしていくか
ジレーマはあるけれど
排泄介護が降りかかるまでは、現状維持で

22 ● 兵庫県宝塚市／大池隆平さん 文子さん

結婚50年の夫婦、経験のなかから覚えた介護のコツ。

25 ● バリアフリーツアー・レポート「クラブツーリズム」
バリアフリー・グアム旅行26 — 10年いろいろ——その後のあれこれ
米窪麻友子

28 — いい顔いっぱい

「百人百色の介護」欄でご紹介する方々の
ステキな笑顔をカラーページでもご紹介

30 — 第一特集

介護報酬改定に 異議あり!

沖藤典子 「フンフィクション作家」

利用者代表として発言を続けた日々

— 在宅の要、ホームヘルプ・サービスを重視したい

小竹雅子 「市民福祉情報オフィス・ハスカップ」
安心を支えられるのか、第4期介護報酬改定36 — 特別寄稿
車いすで東京へ行こう!! (その3)38 — 福祉用具が支える介護
リフトで安心・安全 浜田きよ子38 — 老いと介護の文化通信 米沢慧 [批評家]
「病(やま)いる」——寛解期をいきるという生き方

42 — 聞いてちょうどい 言わせてもらおう

45 — 漢字バラバラパズル

46 — インフォメーション

研修・フォーラム・セミナー／発表／ブック／設立／募集
電話相談／報告書

53 ● 地域と共に ワーカーズコープ
● ハスカップ通信

55 — 編集室より

その人に合った介護を! 高質のサービスを全員でめざす

■新潟市東区■

小規模多機能型居宅介護サービス ささえ愛あわやま



手がそろって皆さん元気に体操

J.R新潟駅から車で15分足らず、住宅街の一角に2階建ての民家を利用した「ささえ愛あわやま」がある。小規模多機能型居宅介護サービスの事業所である。

いわゆる訪問介護、デイサービス、ショートステイの3つのサービスを、それぞれ「訪問」「通い」「泊まり」として組み合わせて利用できることが特徴とする。ケアプランに基づき利用者のニーズに合ったどんな組み合わせでも可能だ。利用者にとっては至れり尽くせりのありがたいサービスである。

今日の「通い」の利用者は14名。74歳～92歳、要介護度2～4の方々だ。そのうち「訪問」や「泊まり」のサービスも利用しているのは6名。内3名は「通い」「泊まり」を継続利用している。またご夫婦で利用している方も3組いる。

朝10時過ぎ、体操が始まる。腕の運動、つま先立ち、かかと立ちなど入念に行われ、皆さん真剣に取り組む。コーヒータイムを挟んで、2月の歌「春よ来い」(輪唱にも挑戦)、「雪の降る町を」をしていねいに歌う。脳を活性化する音読の体操「北原白秋の五十音」を「水馬(あめんば)赤いなアイウエオ、浮藻(うきも)に小蝦(こえび)もよいでの、柿の木(かきの木)栗の木(くりの木)カキクケコ、啄木(つちの木)



将棋に興じるお二人

《《利用者の生活すべてを支援》》

鳥（きつつき）「つづけ　枯れやき…」と大きな口を開けて発声。楽しみながら笑顔が出る。

その後は将棋を始める男性ふたり、お昼ごはんの手伝いをする女性陣、風船遊びで体を動かす仲間など自分の気の向くままに過ごす。午前中は、交替で入浴する。

本日最年長の92歳の赤澤清明さんは要介護度

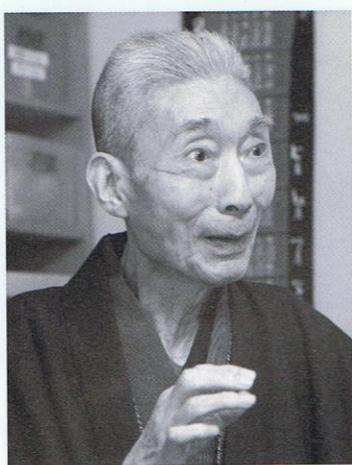
3で「通い」「泊まり」を継続利用している。今日は通院に同行してもらい、その帰りに大好きなあんこ入り

お餅を2つ食べてきて満足だ。次はラーメンを食べた

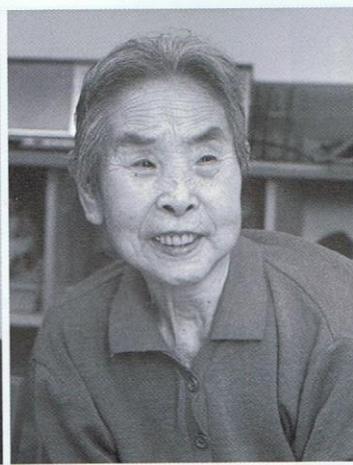
いと言う。独居だった赤澤さんは、「病気を抱えていて日夜ひとりにしておけない」

施設でなく家庭的なところで介護してほしい」というご家族の希望で、今年からここを利用している。「楽しくさせてもらっている」と微笑む。

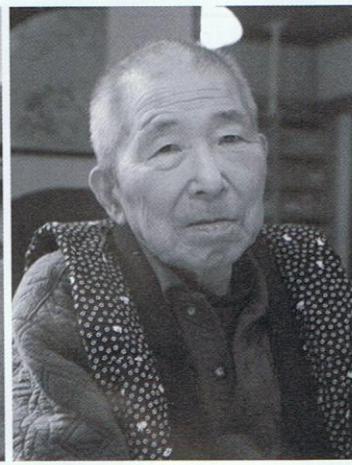
佐藤ハルさんは要介護度2の87歳。十日町で畠仕事を使っていたが、雪が多いし寒いため、新潟市在住のご家族が呼び寄せ、昨年の11月から週4回「通い」を利用している。「暖かくなつたら、十日町に戻つて畠を



和服姿も粋な斎藤了さん



春が待ち遠しい佐藤ハルさん



外食が好きな赤澤清明さん

やりたい」と気持ちはまだ十日町にある。通い始めて間もないし、知らない土地でもあるから無理もない。でも畠作業への意欲は素晴らしい。

斎藤了さんは織維問屋を創業した現役の代表取締役会長さん。要介護度3の83歳。身体機能の低下のため入浴やマッサージのサービスに「通い」を週4回利用している。頭脳発音は極めて明晰で、この日利用者の皆さんの中では初めてという都々逸を、お昼前のひと時、3曲披露してくれた。

「いま別れ道の半町も行かないうちに、こうも逢いたくなるものか」

「明けの鐘ゴーンと鳴る、二日月型の櫛が落ちてる四畳半」

「この膝はあなたに貸す膝あなたの膝は私の泣くとき借りる膝」

思いもかけぬしつとりとした異形の時間の流れに皆さん感激。

「皆が一緒に、お話ししたり歌つたり体操したり、それで元気をもらっています。日本だけの素晴らしい試みです。アメリカではできません」と斎藤さん。

《《高い外部評価》》

地域密着型サービスである小規模多機能型居宅介護は、サービスの質の確保と向上のため、外部評価を活用し改善に取り組んでいくことが義務付けられている。「ささえ愛あわやま」は09年1月6日に2度目の外部評価結果報告を受け、高く評価された。その内容はすでにインターネットにおいて公表されている(WAM-NETワムネット、開示情報「地域密着型サービスの評価」)

<http://www.wam.go.jp/>。

お昼は、ぶり大根、ひじき煮、女池菜(青菜)おひたし、キウイ・イチゴ・桃・梨のスイーツ



お昼の野菜切りを手伝う



近くにスーパー、商店、飲食店、銀行、協力医療機関があり、生活の利便性に優れていることを活用して、利用者が散歩や買い物、飲食などに外出する機会を日常的に作り出している。天気の良い日は体調や希望に添つて週に2~3回は外出する。またコンサート、展覧会、温泉日帰りなど、普段行く機会がない外出支援にも力を入れる。そして家族の許しをもらった10人の利用者は月額5千円のお小遣いを持ち、床屋や外食、買い物に遣えるようにしている。自主性を重んじている。地域との交流にも積極的で、自治会に加入して地域行事や小学校の行事に参加し、地域から

福祉の概況

- 新潟市は2005年の広域合併で人口が80万人を突破、07年4月1日に本州日本海側初の政令指定都市に移行（8区）。水田面積が日本一で「田園型政令指定都市」を標榜している。面積726.10km²。東区は古くからの中心地から東側に伸展した市街地で、国際空港・港湾を有する。山の下みなとタワーは日本海の夕日を一望できる人気スポット。
 - 新潟市東区の総人口は139,150人、65歳以上人口29,875人で、高齢化率は21.5%（09年1月末日現在）。要支援・要介護認定者は合計4,722人。要支援1=323人、要支援2=607人、要介護1=779人、要介護2=844人、要介護3=830人、要介護4=736人、要介護5=603人（09年1月末日現在）。

主な相談窓口

- 新潟市健康福祉部高齢介護課 ☎ 025-226-1261
 - 東区健康福祉課高齢介護係 ☎ 025-250-2320
 - 新潟市社会福祉協議会在宅介護相談コーナー ☎ 025-248-6283
 - 地域包括支援センター（東区）
新潟市では地域包括支援センターを日常生活圏域（基本的に人口2~3万人を目安に幾つかの中学校区を束ねて設定）に1か所ずつ計26か所設置。
山の下 ☎ 025-256-6880
木戸・大形 ☎ 025-272-3552
石山 ☎ 025-277-0077

立場も理解できる。これがスキルアップに大きく

午後になると帰宅願望が激しくなる利用者には、それとなく買い物に誘い出す。お手伝いが好きな利用者には積極的に関わつてもらう。それぞれ個性がある。その個性に寄り添う姿勢を忘れない。またその日のスタッフリーダーは毎日替わるシステムだ。自覚と自信を促し、他のスタッフの

スタッフがきちんと対応しています。毎日利用者のコンディションは違います。今日はけだるそうだ、態度が明る過ぎるから血圧が高いのではないのか、スタッフそれぞれが判断して介護しないといけません。高いスコアがつづらミーティング

◆ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟
ささえ愛あわやま

〒950-0843
新潟市東区栗山3-1-2
TEL & FAX..
025-2774302

05年7月にボランティアが運営する任意事業所として「通い」と「泊まり」のサービスから始まった。その後、介護保険事業所として06年4月1日から新潟市の小規模多機能型住宅介護の事業所第1号として再スタート



ートした。介護保険法の理念である「利用者本位」のサービス提供に取り組んでいる。ケアマネジャーだった神保桂子さんは07年11月から所長に。富山県出身の神保さんは、赤ちゃんからお年寄りまで、障害があってもなくても一緒にケアする活動「このゆびとーまれ」を始めた惣万佳代子さんの影響を受け、転居した新潟で同じような活動をいつかは立ち上げたいと心に秘めていた。それが実現したわけだ。「スタッフが生き生きしていて、あうんの呼吸で介護している。利用者の満足を引き出せたときが楽しい」とスタッフに信頼を置く。

登録定員は25名だが、介護の質を維持するには現在の22名（1人入院）で精いっぱいだという。スタッフは20代～70代まで22人（常勤12人）。

利用者にとって小規模多機能型居宅介護サービスは本当にありがたい。しかしその事業所が増えていかないのは、報酬などで介護保険に問題があることとも指摘しておきたい。

の相談も受け付けている。地域と一体となつて利用者を支えていくという姿勢が表れている。「ささえ愛あわやま」では1日の決まつたスケジュールはない。利用者が思い思いにくつろぎ、一人ひとりのペースや希望を尊重している。在宅への配食サービスで一緒に食事をして服薬支援をした際、体調に不安があり夜間心配など時は臨機応変に「泊まり」のサービスを受け入れる。また家族の方の状況に応じ、かかりつけ医への受診支援もする。こうした多機能性を活かした柔軟な対応が高い評価を生んでいる。

《スタッフが宝》

利用者それぞれが落ち着いて過ごし、よどみなく流れる空気が覆う「よどみえ愛あわやま」。それを実現させているのは他ならぬスタッフの力だ。「スタッフが宝です。利用者の生活すべてを見る

利用者の豊富な経験や知恵を学びつつ、利用者が住み慣れた地域で生きがいを持って支えながら生活できるよう多くの時間を共有して支援していく、「生き家を使って」という地域からのありがたい声もある。小規模多機能居宅介護事業所を多くつくりたいという神保さんの夢は実現に向けて動き始めている。

右から、柳沢、星野、青木、神保、
佐藤、末武、田中、本間の本日の
スタッフ諸氏





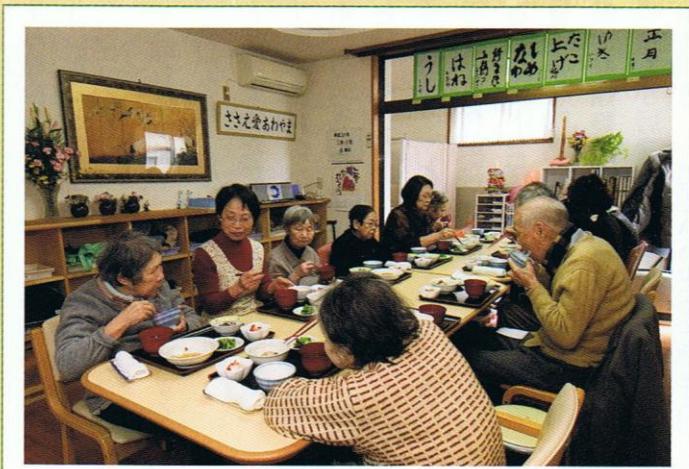
お昼の野菜切りを手伝うのは日課



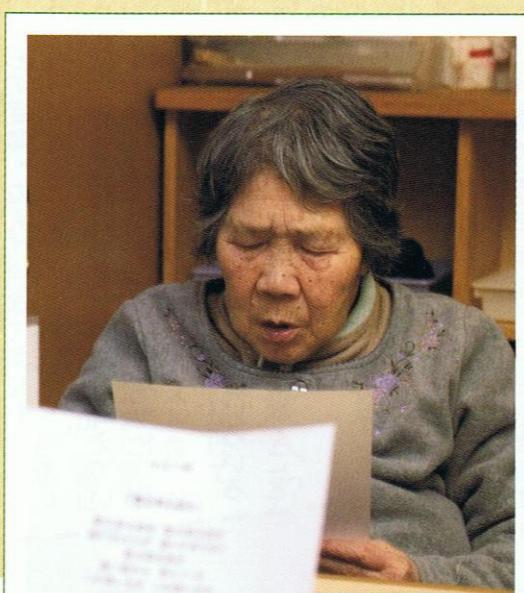
風船遊びに興じる真剣な顔。知らずに体を動かしている

ささえ あわやま

「百人百色の介護」欄でご紹介する方々の
ステキな笑顔をカラーページでもご紹介。



楽しい食事。皆さん完食でした



歌詞カードを見て一人で歌うときもある

■新潟市東区
小規模多機能型居宅介護サービス
ささえ愛あわやま